

令和2年度 事業報告書



デジタルものづくり工房「ファブスタ★」
(令和3年1月オープン)



コロナ感染防止対策地元製品（アクリルボード、
シールド（顔、バスシート）、マスク、消毒液）

公益財団法人 南信州・飯田産業センター

令和2年度 事業総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）が世界中に広がり、多くの国で渡航制限や外出制限がなされるなどにより、世界経済は急速に悪化しました。

国内においても、4月に発令された緊急事態宣言や、各国のロックダウンの影響を受け、サプライチェーンは寸断され、モノの移動が制限されて、その影響は様々な産業に及びました。国内の実質GDPは4月から6月にかけて前年比10.1%減と大幅に落ち込み、その後、徐々に回復はしましたが、秋以降再び感染は拡大し、経済は減速してきている状況にあります。これにより企業の休廃業や解散が、過去最多となっています。

長野県経済も、コロナの影響により、県内企業の収益は急激に縮小し、さらに国内外経済の不透明感から設備投資が大きく抑制された形となりました。

当地域においても、様々な産業がコロナの影響を受けました。緊急事態宣言が発令された昨年4月から5月を底に持ち直しの動きもありましたが、今年に入り市内を中心に感染は拡大し、感染警戒レベルが5に引き上げられたことから、消費の低迷が続いている状況にあります。今後ワクチンの接種が進み、消費マインドが回復するよう期待するところです。

製造業では半導体・自動車関連・電機関連などで、受注状況は改善してきていると言われている一方で、需要が急減した航空機関連など、業種によって景況感には大きな開きもみられます。建設業では官需を中心に順調に推移しました。半生菓子、味噌、水引などの地場産業は、巣ごもり需要による増加がみられる一方、ここでもコロナの影響で先行きは不透明との声や、生活様式の変化による影響を指摘する声も強くありました。なお、当地域の雇用情勢は有効求人倍率が堅調に推移しており、受注量の増加した産業では人手不足となり、他産業からの出向を受け入れるなど、雇用シェアを模索する動きも見られました。

コロナは経済へ悪影響を及ぼしたばかりではなく、新たな潮流を生み出すことにもなりました。例えば、

1つ目は、グリーンリカバリーに象徴される、持続可能性の優先順位が上昇したことです。コロナ禍からの経済復興にあたり、環境に配慮した形で復興を進めるため、気候変動に対応する循環型投資に振り向けていこうとする考え方が定着しました。

2つ目は、集中から分散への動きが加速しました。集中に対するリスクを認識し、サプライチェーンの再構築に向けた動きも現れています。また、三密を避けるためにリモートワークによる働き方改革も進みました。

3つ目は、デジタル化の進展です。ビジネスモデルの転換を視野に入れながら、企業活動の生産性改善と、より便利で豊かな生活を実現する、重要な役割を担っています。

当センターには、こうした産業の潮流変化を的確に捉え、有効な支援活動を行って

いくことが必要となっています。

当センターでは、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道の開通など高速交通網の整備によるプラス効果を最大限に活かす戦略的な取り組みが必要と考え、平成30年度にリニア時代を見据えた「産業振興ビジョン」を策定しました。

令和2年度は、「産業振興ビジョン」に掲げる「南信州地域が目指す産業の未来」の姿をめざし「選ばれる地域」「共創する地域」「自立した地域」の実現に向けて、地域の支援機関として取り組んできた4つの柱「新産業創出支援」「地場産業高度化・ブランド化支援」「人材育成支援」「販路開拓支援」に取り組みました。

また、本ビジョンが策定から3年を経過し、前期が終了することから、2021年度からの中期4年間を取組期間とする、産業振興ビジョン中期計画の策定を行いました。

当地域が真の地方創生を成し遂げ、持続可能な地域を実現していくためには、リニア時代を見据え、地域に活力を生む「産業振興と人材育成の拠点“エス・バード”」の機能強化と世界に誇れる南信州・飯田ならではの形を発信していくことが不可欠となっています。

新産業創出支援では、航空宇宙分野における受注拡大に向けてプロジェクトマネージャーとコーディネーターを配置し、WEBを活用したビジネスマッチングや展示会に参加したほか、コロナ禍からの需要回復期を見据えた競争力強化の取り組みを支援しました。

また、食品分野では、ルミナコイド研究会により、飯田女子短期大学と連携して半生菓子の開発に取り組みました。

販路開拓支援では、コロナ禍によりビジネスネットワーク支援センターの事業は制限されましたが、オンライン開催などにより各種展示会や商談会への出展と受発注支援に取り組み、前年度を超える実績をあげることができました。

特に、コロナ予防対策製品について、会員企業による開発・販売を支援し事業化することができました。

地場産業の高度化・ブランド化支援では、長野県地域資源製品開発支援センターと連携し、デザイン力向上による商品の高付加価値化に取り組んだほか、コロナ対策として、飯田水引協同組合が取り組む「飯田水引シトラスリボンプロジェクト」を支援しました。

人材育成支援では、「信州大学航空機システム共同研究講座」の運営を支援し、同講座から新たに3名の修了生が輩出されました。なお、4年間の有期講座が終了することから、今後の方向性について信州大学と協議し、「分野横断ユニット」に位置づけられることになり、他大学からの学生も受け入れて、講座を今後さらに4年間延長することが決定しました。

デザイン系高等教育機関（大学院）の設置については、信州大学農学部との協議により「ランドスケープ・プランニング共同研究講座」の開設に向け、地域で運営を支援するコンソーシアム組織の設立準備を進めることができました。

飯田産業技術大学では、人材育成コーディネーターを新たに配置したことで、中小企業大学校との共催による新規開講をはじめ、信州大学が実施する「信州フードスペシャリスト養成講座」などの新規支援事業を行うことができました。

さらに、誰もが気軽に利用できる、デジタルものづくり工房「ファブスタ★」をオープンし、学生向けの体験講座も開催しました。

施設整備については、オープン以降利用者からのニーズを受け入れ、「第Ⅴ期工事」として利便性と機能の向上に取り組みました。

また、飯田工業技術試験研究所に新たな環境試験機器「高周波振動試験装置」を導入しました。本装置の導入により、一連の地方創生推進交付金を活用した環境試験機器の整備は完了しました。

今後は、これらの機器を生かし、工業技術試験研究所の環境試験機能を高める取り組みを進めていきます。

施設利用について、貸館事業ではエス・バード通信の定期発行などの PR 効果もあり、多様な主体に産業振興をはじめ様々な目的で利用いただきましたが、コロナの影響から、年間利用者は 22,346 人と前年の 63,808 名から大きく減少しました。飯田工業技術試験研究所の利用状況もコロナ対策として利用制限を行ったことから、利用件数、測定料収入ともに減少しました。一方で、環境試験機器や食品系試験機器は PR 活動や研修会等の効果もあり、コロナ禍にあっても利用件数、測定料収入ともに増加し、新商品の開発等に寄与しました。

また、インキュベーター室については、4 者の入居があり活用が進みました。

エス・バードがスタートして 2 年余りが経過しました。

エス・バードに求められる「産業振興と人材育成の拠点」としての機能をさらに高めていくためには、これまで整備してきた設備を最大限活用するソフト事業を充実させていくことが不可欠となります。

当センターは、今後も様々な課題と向き合いながら、これまで積み重ねてきた知識と経験、専門的人材を活用し、リニア時代を見据えて策定した「産業振興ビジョン」の実現に向け、産業振興に寄与する支援機関として、新しい生活様式に対応した、コロナに負けない強い地域産業づくりを支援してまいります。

■産業振興ビジョン個別事業における目標設定に対する実績

具体的事業（前期：2020（R2）年度末までの取り組み）

次世代産業の育成と基盤強化

1. 航空機関連産業の基盤強化
2. メディカルバイオクラスター分野の育成
3. 食における新商品開発、販路拡大、拠点の「食の基地化」

基幹産業・伝統的地場産業の高度化・ブランド化

4. ものづくりの高度化・高付加価値化支援
5. 地場産品のブランド化支援

人材確保・人材育成（横断的支援）

6. 高等教育機関との連携による高度人材育成
7. 地域産業の将来を担う人材の確保と育成

支援体制の更なる強化（横断的支援）

8. 地域内外への情報発信
9. 起業・創業支援、異業種連携、ビジネスマッチング
10. 公的試験部門の機能強化

指標名	前期 (令和2年度) 目標値	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (前期最終年)
1. 航空機分野に関する売上額	31.09億円	36.8億円	43.0億円	32.4億円
2. 新製品等の数（累計）	4件	4件	7件	19件
3. 専門的な研修会等の開催回数	12回/年	2回	11回	10回
4. 製造品出荷額	4,090億円	3,637.5億円	3,519.7億円 (工業統計速報値)	(R4.2月工業統計速報値公表予定)
5. 水引産業の全国シェア割合	70%	70%	70%	70%
デザインサポート事業の開催数	5回/年	9回	25回	32回
6. 信州大学学位取得者数（累計）	13人	2人	8人	11人
7. 飯田産業技術大学受講者数	1,000人/年	913人	971人	953人
高校生の事業参加者数	1,000人/年	729人	702人	220人
8. 視察受け入れ件数	20件/年	25件	104件	12件
シンポジウムの開催数	3回	3回	5回	4回
9. I-Port 連携件数	3件	7件	4件	0件
10. 工業技術試験研究所利用件数	1,150回/年	897回	843回	826回

1. 施設利用事業

貸館事業については、コロナが大きく影響し、利用件数・人数・収入ともに減少しました。なお、緊急事態宣言等を受け、臨時休館（73日間）を行いました。

特にコロナ禍においては、大規模のイベントの開催が難しい状況が利用者数と使用料収入の減に直結しています。また、こうした状況は当面の間続くものと思われま

共創の場については、コロナの影響があるものの、中高生の自習スペースとしての利用が定着しており、利用の減少は小幅となっています。

売店、飲食店についても、センターの臨時休館に伴い休業や時短営業を行っていただきました。

インキュベーション室については、昨年度末時点での入居が1者であったものが、今年度末時点では4者に増加、さらに令和3年4月から新たに1者入居が決定しています。

(1) 施設利用実績（直近10年）

年度	利用件数（件）	利用者数（人）	利用料収入（円）
23	918	45,960	22,680,332
24	973	47,511	23,918,876
25	1,004	46,739	20,298,108
26	891	46,816	20,806,792
27	840	47,603	20,336,495
28	836	45,311	20,207,985
29	700	42,071	20,355,063
30	664	39,623	19,782,029
01	881	63,808	20,253,002
02	735	22,346	15,159,900

※R1以降の利用料収入には売店、飲食店、インキュベーション室の利用料金を含む。

①利用目的内訳

利用の別	件数（件）	利用者数（人）
有料利用	407	14,037
無料、減免、内部利用	328	5,484
共創の場	—	2,825
合計	735	22,346

②臨時休館

令和2年4月11日（土）～5月31日（日）52日間

令和3年1月18日（月）～2月7日（日）21日間

③利用収入内訳

施設別		施設使用料（年額）	備 考
時 間 貸	貸館	11,211,650	
	共創の場	155,100	
	キャンセル料	156,150	
月 貸	売店、飲食店	1,730,000	光熱費別途
	飯田水引協同組合	360,000	
	インキュベート室（4室合計）	1,247,000	
	信州大学	300,000	
合 計		15,159,900	

2. 産業振興事業

インキュベーター室の利用促進については、入居が4者に増加、さらに令和3年4月から新たに1者入居が決定しています。

コロナ感染拡大を受けて、南信州地域内では感染防止対策製品などが開発されており、その製品PRに努めました。

シードルのブランド化支援では、令和元年度から3か年計画で進められているシードルツーリズム推進事業に引き続き参加しました。また、飯田産業技術大学にシードル講座を開講したほか、食品系試験室において味覚センサーを活用した品質管理の検討を進めてきました。

(1) 研究開発支援事業【ビジョン1, 2, 3, 4, 9】

① エス・バードインキュベーター室の利用促進

B棟	インキュベーター1	R2.12月退居 (AM システムズ (株))
	インキュベーター2	一級建築士環境プランニング (R3.1月入居)
	インキュベーター3	(株) 弘和テック (R2.11月入居)
	インキュベーター4	(NPO) 伊那谷スポーツクラブ (R2.7月入居)
E棟	インキュベーター1	(株) WIT (R3.4月入居決定)
	インキュベーター2	信州大学農学部 (フードスペシャリスト養成講座 R2.4月入居)

② 飯田市環境技術開発センター

新規の入居希望者に対しては、審査委員会を開催して評価を行い入居の可否を判断するとともに、既存の入居企業についてはオーガナイザーが定期的に面談し、必要に応じて助言しました。

(2) 需要開拓事業【ビジョン1, 2, 3, 4, 5】

① 新型コロナウイルス感染予防対策製品のPR支援

- ・地域内で製造されたコロナ感染予防対策製品について、チラシを作成し、ウェブサイトや配布等でPRしました。



(医療用 IC ボックス)

(3) 地域ブランド構築事業【ビジョン3, 4, 5】

① デザインサポート事業

- ・長野県地域資源製品開発支援センターとの連携事業として実施。
- ・デザインから商品化までの実践を行いました。
 - 講演会・事業説明会 (7/29 エス・バード) 参加者 41 人
 - お悩み相談会 (8/21、26 エス・バード) 参加 8 者
 - サポート実践 (延べ 30 回) 参加 5 者
 - 製品発表記者会見 (12/15) 実施 1 者



(成果品 (製品パッケージ))

②ブランド化の活動支援

ア 飯田水引協同組合の活動支援

- ・飯田水引シトラスリボンプロジェクト動画の作成・PR
- ・飯田水引体験コーナーの開設（R3.1月）
利用者 136名

イ 菓子のブランド化

- ・飯田菓子大使小沢あきこさんのブログ等で周知

ウ シードルのブランド化

- ・南信州シードルツーリズム推進事業への参画
- ・味覚センサーによる味の数値化技術を活用した販売促進の検討

エ つぶほまれ栽培・加工研究会の活動支援

- ・研究会に29の団体等の44名参加
- ・松尾小学校、座光寺小学校が実施したつぶほまれ栽培・加工体験学習プログラムの運営支援



（松尾小学校 きなこづくり）



（座光寺小学校 豆まき）

③農商工連携の取り組み

- ・つぶほまれ栽培・加工研究会の活動支援（上記②のエのとおり）

④地域連携プロジェクト（7月14日、8月17日、12月23日）

座光寺地区と連携して規格外果実を活用した商品（フルーツサイダー等）の開発について検討を進めました。

（4）産業活性化事業【ビジョン4.9】

①各種地場産業団体、グループへの活動支援

- ・地場産マネージメント倶楽部（例会10回）
- ・南信州食品産業協議会（当センター食品系試験機器利用補助8社）

②各機関との連携事業

- ・飯田市I-Port事業へ金融機関、商工会議所等と連携参画しました。

（5）情報収集提供事業【ビジョン8】

- ・エス・バード通信の発行（年6回発行）
- ・ホームページの充実（随時）
- ・広報いいだ2月1日号での施設特集
- ・飯田ケーブルテレビ「飯田市テレビ広報」での施設紹介

3. 人材育成事業

飯田産業技術大学では、新入社員や若手社員を対象にした業務に必要な基礎的な知識及び専門的で実践的な講座等を実施しました。特に、経営管理講座では、中小企業大学校との共催による講座を新規開講しました。

また、人材育成コーディネーターを新規配置し、信州大学が行う「信州フードスペシャリスト養成講座」の支援を中心に、人材育成事業全般の企画運営を強化しました。

エス・バードに整備された環境試験機器の利用促進と地域内外への情報発信を目的として、第2回航空機システム環境評価試験シンポジウム（ASES2020）を、コロナ禍のため、ホールとオンライン配信との併用で開催しました。

令和3年1月にはデジタルものづくり工房「ファブスタ★」をオープンしました。3Dプリンターやレーザーカッターといったデジタルファブリケーション機器を誰もが気軽に利用できるための施設基盤を整備し、学生向け体験講座も開催しました。

地域に新たに就職する高校生を対象に行っている「新社会人育成講座」は、オンライン開催としました。

(1) 飯田産業技術大学【ビジョン4,7】

①技術講座（会場：長野県飯田技術専門校）

講座名	開催日	参加者延数
測定基礎講座（1講座2日間、4回開催）	10/6, 7, 9, 12, 13, 14, 16, 19	42人
3次元CAD「SolidWorks2014」入門講座	6/25	9人
3次元CAD「SolidWorks2014」初級講座	7/16, 17, 30, 31	24人
3次元CAD「SolidWorks2014」中級講座	11/19, 20, 26, 27	24人
測定及び品質管理基礎講座	3/23, 24	14人

計 19 日間 延べ 113 人

②経営管理講座（会場：エス・バード）

講座名	開催日	参加者延数
品質管理入門講座	6/25, 30	26人
ISO9001 内部監査員養成講座	10/22, 23	12人
ISO14001 内部監査員養成講座	11/12, 13	34人
JISQ9100 内部監査員養成講座	12/2, 3	50人
味覚レベルアップ講座「コロナ禍に食品のおいしさをいかに伝えるか」	3/17	25人
味覚センサーによるシードルの分析講座	7/2	34人
酒税法（一般小売免許）の基本講座	2/22	21人
酒販免許取得者向け講習	2/22	21人
松川町とシードルについて	1/27	22人
商標登録講座	3/11	16人
長野県のシードルへの取り組み・マーケティングについて	8/18	20人
自社の経営革新実践セミナー	12/17	10人
人が育つ企業教育・研修計画立案講座	12/24	9人
工場管理者養成講座	1/12, 13	40人

新
新
新

ルミナコイド勉強会	12/3	40人
航空機部品製造 生産技術研修講座	12/18	10人

計 21 日間 延べ 390 人

③特別講座（会場：エス・バードほか）

講座名	開催日	参加者延数
信州大学飯田コース「特別の課程」	4月～3月	120人
第2回航空機システム環境評価試験シンポジウム（ASES2020）	10/23	179人
第1回メディカルバイオシンポジウム「健康長寿社会に向けた食の探究」	7/7	80人
第2回メディカルバイオシンポジウム「高齢者健康教室における咀嚼、栄養、運動指導の効果」他	11/2	71人

計 43 日間 延べ 450 人



（食品系講座）



（経営管理講座）

～受講者アンケート（抜粋）～

○測定基礎講座

- ・基礎講座だが、自分にとっては少し難しいと感じた。講師の説明がわかり易くてよかった。
- ・目盛りを読むテストの紙をもっと分かりやすい紙にしてほしい。
- ・テキスト掲載写真が白黒のためか、見づらいと思った。

○味覚レベルアップ講座

- ・大変興味深かった。それだけに時間が足りず駆け足の説明になってしまったのは残念であった。
- ・突き詰めればもう少し時間が必要な内容でもあったと感じた。じっくり取り組む講座もあっていいと思います。
- ・実際に分析を行い、測定数値を基に協議を行うワークショップ形式の講座をお願いしたい。
- ・コロナ禍でマーケットは大きく変動している。そうした中で農産物販売の拡大に活かせるような講座を希望。

○自社の経営革新実践セミナー

- ・とても勉強になった。「行動あるのみ」です。
- ・企業経営充実のヒントをいただけた。
- ・短時間で2社の話が聞けたが、もう少し時間が長くてもよかった。

(2) 信州フードスペシャリスト養成講座(信州大学農学部及び飯田市との連携事業)

【ビジョン6,7】

- ・南信州地域からの参加 7企業9名
- ・人材育成コーディネーターを配置し、120時間のカリキュラムを実施しました。
- ・コロナ禍により、オンラインでの開催が主となりました(11月24日のみ全受講者23名がエス・バードにて対面講座を受講)。

(3) 第2回航空機システム環境評価試験シンポジウム「ASES2020」(10月23日 エス・バード) **【ビジョン1,10】**

①講演内容

あいさつ・講演：我が国の航空機産業の現状と今後の展望

講師 経済産業省製造産業局航空機部品・素材産業室長 宮越 朗氏
基調講演：「航空法の概要と最近の取組」

講師 国土交通省航空局安全企画課 山村 肇氏

講演1：「民間航空機装備品における環境試験実施例」

講師 ナブテスコ(株) 航空宇宙カンパニー 鈴木一行氏

講演2：「装備品メーカーから見た認証における課題」

講師 東京航空計器(株) 航空宇宙事業本部 川島賢太郎氏

講演3：「ドローン等関連施設紹介および環境試験機器紹介」

○福島ロボットテストフィールドの概要

福島ロボットテストフィールド 細田慶信氏

○先端イノベーションラボ「Ds-Labo」のご紹介

大分県産業科学技術センター電子・情報担当 幸嘉平太氏

○エス・バード環境試験機器紹介

飯田工業技術試験研究所 柳瀬智豊氏

講演4：「環境試験設備活用調査報告」

講師 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 長尾尚訓氏

②参加者 100社 179名

(4) 地域産業の将来を担う人材育成事業 **【ビジョン7】**

①新社会人育成講座(令和3年2月9、16、19、20日の全4回 オンライン開催)

講師 まなびと 井坪まゆ美氏

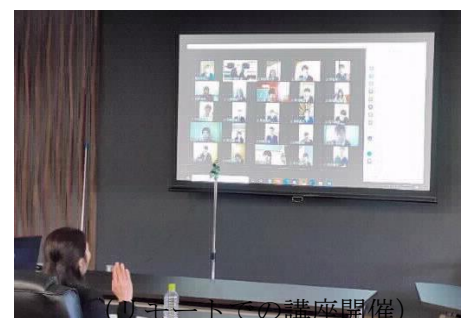
参加者 22社、37名

- 内容
- ・組織人としての物事の捉え方、考え方、基本的な仕事の進め方
 - ・COVID-19がもたらした変化、社会生活や暮らし、経済への影響
 - ・働き方の変化やリモートワークについて
 - ・組織人としての基本的なビジネスマナー
 - ・コミュニケーション力を磨く。など

②風越高校2学年探求学習(信州学)における講義

(7月30日 飯田風越高校)

- ・講義：「産業振興と人材育成」
- ・講師：当センター業務係長 伊藤 宏氏



- ・参加者：風越高校2学年 約60名

(5) デジタルものづくり工房「ファブスタ★」開設事業【ビジョン6,7】

①施設概要

- ・3Dプリンター 8台
- ・レーザーカッター 3台
- ・射出成型機 1台
- ・カッティングマシン 3台
- ・パソコン(3D-CAD) 6台

②講座

- ・プレオープン(12月) 参加者 延べ18名
- ・学生向け体験講座(2~3月) 参加者 延べ9名

③その他

- ・信州大学ジュニアドクター育成塾での体験講座(10月31日) 参加者18名



(レーザーカッター機器講習)



(ジュニアドクター養成塾)

(6) 企業展示説明会(飯田市連携事業)

- ・今年度はコロナの影響を鑑み、実会場での開催を中止とし、企業紹介冊子を製作し、地域の高校等の関係機関に配布したほか、希望企業による企業の紹介動画を製作し、YouTubeにて公開しました。

4. 飯田ビジネスネットワーク支援センター（NESUC-IIDA）

今年度はコロナ禍のため、従来の展示会や商談会がオンライン開催となることが多くありましたが、飯田ビジネスネットワーク支援センターとして出展し、この地域の技術力等をアピールし、顧客の確保に努めました。

また、オーガナイザーが中心となり、新たなビジネスマッチング機会の拡大を図るとともに、単独企業では取り扱えない案件について会員相互間での共同受注に取り組みました。

特に、今年度はコロナ感染予防対策製品について、会員企業による開発から販売までを支援し、迅速に製品開発ができたことは、終わりの見えないコロナ禍の今後の対策としても有効であると考えられます。

(1) 共同受発注事業【ビジョン4.8.9】

①展示会出展（オンライン含む）

- ・ 第 23 回関西機械要素技術展
10月7～9日 インテックス大阪
- ・ メッセナゴヤ 2020
11月16日～12月11日 オンライン
- ・ 富山県・長野県ものづくり連携商談会 in 東京
11月17日～12月4日 オンライン
- ・ 静岡・山梨長野 連携ものづくり商談会
11月9～27日 オンライン
- ・ “地域の絆” 情報交換・商談会
2月17～18日 オンライン
- ・ テクニカルショウヨコハマ
2月17～26日 オンライン



(第 23 回関西機械要素技術展)

②営業実績（直近 10 年）

コロナ禍による販路開拓活動の制限等もあり、今年度は引合件数について減少しましたが、コロナ感染予防対策製品の売上や会員間の取引が増加したことにより成約金額が増加しました。

年度	取引成約金額 [千円]	引合件数	県外	県内	地区内	取引成約	成約率 [%]
23	284,735	205	189	0	16	45	22.0
24	306,641	126	117	1	8	47	37.3
25	442,773	139	124	4	11	54	38.8
26	587,390	335	300	6	29	41	12.2
27	726,490	410	375	3	32	42	10.3
28	835,439	491	472	5	14	95	19.3
29	1,032,645	540	468	4	68	57	10.6
30	1,048,160	581	534	25	22	58	10.0
01	1,034,220	657	619	0	38	55	8.4
02	1,163,200	571	463	1	107	25	11.6

(2) 連携製品開発事業【ビジョン4.9】

一社だけでは対応できない開発案件は、会員企業のネットワークを活用し、複数会員の連携により取り組みを行いました。

特に、コロナ感染予防対策製品について、多くの製品が地域内で短期間に開発され、医療機関や介護現場、官公庁、金融機関等で活用されています。このように、地域企業が連携し地域内で開発から販売まで迅速に実施できたことは、今後のコロナ対応としても有効なものになると考えられます。

名称	販売顧客先等	進捗状況
高速道路の通行運転者への警告・警報システム	高速道路関連商社	販売、開発継続
高速道路での危険運転車からの退避システム	高速道路関連商社	販売、開発継続
非常時に持ち運びできる「ポータブルライト」	工事関係者	設計開発
リハビリ用下肢荷重測定装置	医療機関	販売、開発継続
複数交通モードの現状可視化	電機機器メーカー	販売、開発継続
複数環境の水路トンネル形状の3D計測	電力会社	販売、開発継続
イングリッシュハンドベル	ハンドベル諸団体	販売
クラウニング樹脂歯車の開発製造	事務機器メーカー	販売
アディティブマニュファクチャリング技術を応用した金属造形	製造業企業等	技術応用
フェムト秒レーザーを応用した微細加工	製造機器メーカー	技術開発
地下変電設備における浸水センサーの開発・製造	電力会社	見積提示
ハイブリッド発電・蓄電システム	機器メーカー	販売
コロナ対策備品 アクリル飛沫防止板	官公庁、医療機関、商社	販売
コロナ対策備品 エアロゾル Box	医療機関	販売
コロナ対策備品 フェイスシールド	医療機関官公庁他	販売
コロナ対策備品 不織布医療用ガウン	経産省	販売
コロナ対策備品 不織布キャップ	医療機関	販売
新製品用小型ポンプ開発	精密機器メーカー	コロナで中断
コロナ対応歯科治療ブース検討依頼	医療機関	検討見積
歯科治療集塵機の開発依頼	地元企業同士	紹介・開発・納入
コロナ対策品不織布ガウン自動折りたたみ装置	ネスク加盟企業	紹介・開発
社内システム構築	地元企業同士	紹介・開発
電動車椅子用インホイールモータ開発	車椅子メーカー	共同開発
スマートグリッド用ルーター開発	ベンチャー企業	共同開発
防爆評価装置用マニピュレータの開発	エス・バード	紹介・開発・納入
シース剥離装置の開発	ネスク加盟企業	紹介・開発・納入
シース線接点カシメ機	ネスク加盟企業	仕様・試作検討中
低位置道路照明	高速道路関連商社	開発断念
婚礼用乾杯グラスの開発（和音+漆）	式典・式場	製品化準備中

(3) 情報の発信と共有化【ビジョン4.8,9】

ウェブサイト、企業ガイドブックの活用や、展示会等への積極的な参加により

会員企業の情報発信をし、新規顧客開拓、人材確保、ビジネスマッチング機会の拡大を推進しました。特にウェブサイトを通じて会員企業に引き合い等の情報を提供し共有化を図りました。

(4) 他地域との交流、先進地視察【**ビジョン4,8,9**】

年度内に先進企業の視察を計画していましたが、コロナの影響で延期となりました。

5. 飯田工業技術試験研究所

コロナ禍の影響により、利用件数、測定料収入ともに減少しました。貸館事業と同様に、コロナ対策として、利用制限をしたことが主な要因と考えられます。

分野別では、電気関連は減少したものの、精密部品関連、食品関連、測定機器類の校正が増加しました。

環境試験機器の利用については、前年度に対し、地域内の利用件数は減少したものの、試験機器全体の利用件数と測定料金はともに増加しました。特に、地域外の利用が増えたことは、ASES2020をはじめ、様々な機会でのPRの効果が当研究所の認知度向上につながってきたものと推察されます。

また、環境試験機能の機能拡充・強化として、民間航空機規格（RTCA-D0160）に対応した、「高周波振動試験装置」を導入しました。本装置導入により、一連の地方創生推進交付金を利用した環境試験機器の整備が完了しました。今後は、国内唯一の環境試験の拠点として、自立・自走していくための体制強化が必要となります。

EMC 試験室は、測定使用料は新型コロナウイルス対策の利用制限により前年度対比で減少しました。地域別では、県内の利用件数は増加したものの、地域内の利用件数は減少しました。試験品としては、防衛関係や民間航空機関係の利用があり、一般電気製品の利用が増加しました。

食品系試験室は、PR活動と研修会等の開催効果により、前年度に対し利用件数、測定料収入ともに増加し、新商品の開発等に寄与しました。

(1) 工業技術試験研究所 利用実績（合計 直近10年）【ビジョン1,10】

年度	地域内利用	県内利用	県外利用	利用計	測定料金（円）
23	795	197	40	1,032	34,543,882
24	715	166	48	929	30,864,560
25	719	159	33	911	32,504,535
26	731	164	37	932	28,897,322
27	665	168	33	866	27,464,199
28	640	212	26	878	33,670,678
29	617	168	36	821	31,219,812
30	513	156	32	701	31,395,568
01	611	133	99	843	30,851,154
02	507	236	83	826	28,079,719

(1) -① 測定・分析・解析利用実績（直近10年）【ビジョン10】

年度	地域内利用	県内利用	県外利用	利用計	測定料金（円）
23	708	148	8	864	11,607,660
24	653	114	12	779	9,707,550
25	650	124	8	782	9,709,030
26	647	111	17	775	10,014,401
27	587	116	11	714	12,116,452

28	567	134	8	709	12,903,429
29	559	121	11	691	12,380,131
30	468	98	19	585	12,252,593
01	461	52	2	515	10,707,913
02	386	44	11	441	10,279,204

(1) -② EMC 試験室利用実績 (直近 10 年) 【ビジョン 10】

年度	地域内利用	県内利用	県外利用	利用計	測定料金 (円)
23	87	49	32	168	22,936,222
24	62	52	36	150	21,157,010
25	69	35	25	129	22,795,505
26	84	53	20	157	18,882,921
27	78	52	22	152	15,347,747
28	73	78	18	169	20,767,249
29	55	47	24	126	13,748,111
30	42	53	10	105	17,517,785
01	99	58	80	237	16,295,233
02	65	160	52	277	11,485,894

(1) -③ 環境試験機器 (着氷試験室、防爆試験室、燃焼・耐火性試験室、高速温度変化試験室) 利用実績 【ビジョン 1, 10】

年度	地域内利用	県内利用	県外利用	利用計	測定料金 (円)
29	3	0	1	4	5,091,570
30	2	5	3	10	1,620,490
01	13	19	11	43	3,488,896
02	10	22	20	52	5,911,511

(環境試験機器導入経過：令和 2 年度で完了)

- ・平成 28 年度 着氷試験装置
- ・平成 29 年度 防爆性試験評価試験装置
- ・平成 30 年度 燃焼・耐火性試験装置
- ・令和元年度 高速温度変化試験装置
- ・令和 2 年度 高周波振動試験装置



(高周波振動試験装置)

(1) -④ 食品系試験室試験機器利用実績 【ビジョン 2, 3, 4, 10】

年度	地域内利用	県内利用	県外利用	利用計	測定料金 (円)
30	1	0	0	1	4,700
01	38	4	6	48	359,112
02	46	10	0	56	403,110

6. 新産業クラスター事業

航空機分野では、飯田航空宇宙プロジェクト及びエアロスペース飯田の受注拡大に向けて、プロジェクトマネージャーとコーディネーターを配置し、WEB 等も活用しながらビジネスマッチングや展示会に参加したほか、これまで培ってきたネットワークを活かした営業活動として、国内にある海外に拠点を持つ企業を中心に訪問し、海外動向に関する情報リサーチや環境評価試験装置の PR も含め意見交換等を実施しました。また、品質保証体制強化のための専門家派遣や、生産性向上・生産管理効率化に向けた体制構築支援を行い、コロナの影響からの需要回復期を見据えた競争力強化の取組を支援しました。また、航空機分野の技術を活かして、コロナ感染予防対策製品としてバスの座席シールドの開発を支援し、地元バス会社 2 社に採用されました。

メディカルバイオクラスターでは、シンポジウムを 2 回開催し、これまでの取り組みの成果や論文を発表しました。また、ルミナコイド研究会では、飯田女子短期大学と連携して半生菓子の開発に取り組みました。

(1) 航空宇宙クラスターの形成支援【ビジョン1】

①エアロスペース飯田会議

- ・ 16 回開催（参画企業数 10 社）

営業活動戦略検討、連携体制検討、組織運営体制検討など

②伊那テクノバレーと連携した各種セミナーの開催

- ・ JISQ9100 内部監査員養成講座（12 月 2～3 日 エス・バード）

参加者 8 社 24 名

③一貫生産体制の強化支援

ア 地域企業向け特殊工程技術研修（会場：多摩川パーツマニュファクチャリング（株））

- ・ 第 1 回（8 月 25 日） 参加者：8 社 13 名

- ・ 第 2 回（11 月 27 日） 参加者：6 社 13 名

④国内外展示会出展等による販路開拓事業

- ・ エンジンフォーラム神戸 2020（10 月 20～21 日）

商談件数：12 件

⑤「アジア No. 1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の変更及び継続申請支援

- ・ 飯田下伊那 35 事業所指定

⑥航空機分野の技術を活かした製品・技術開発支援

- ・ バスの座席シールドの開発・販売支援

(2) メディカルバイオクラスターの運営支援【ビジョン2】

①シンポジウム

ア 第 1 回（7 月 7 日 エス・バード）

講演 「健康長寿社会に向けた食の探究」

講師 輝山会記念病院

総合健診センター長 原修氏 ほか

参加者 85 名



イ 第2回 (11月2日 エス・バード)

講演 「高齢者健康教室における咀嚼、栄養、運動指導の効果」

講師 飯田女子短期大学

教授 友竹浩之氏、安富和子氏

参加者 71名



②食品系分科会

- ・嚥下障害啓発の YouTube 番組制作 (健和会病院との共同制作)
- ・介護食品の試作品アンケート (介護保険事業所連絡会との連携)

③歯科医療系分科会

- ・歯科技工士用小型集じん機の開発
試作品の製作・試用・フィードバックを実施
- ・足圧測定器の開発
試作品の製作・試用・フィードバックを実施

④みそ大学「出前味噌講座」を開催 (3回/年)

⑤ゆるキャラ「かみかみ大使カミン」の焼印を

活用した食育推進事業 (第2回シンポジウムでのPR)

⑥ルミナコイド研究会

- ・第1回勉強会 (12月3日 エス・バード)
テーマ食材・製品: 餡・半生菓子 参加者 71名
- ・南信州食材パンフレット作成 (英語版・日本語版)
飯田女子短期大学との連携



(ルミナコイド勉強会の様子)

※ルミナコイド…ヒトの小腸内で消化・吸収されにくく、消化管を介して健康の維持に役立つ生理作用を発現する食物成分

(3) 環境・エネルギー産業の活動支援【ビジョン4】

- ・マイクロ水力発電システムの開発と実証実験の支援を実施しました。
- ・売電中の発電システム7基 (うち今年度稼働2基)

(4) 製品 (技術) 開発等に関する活動支援【ビジョン4,8】

- ①地域や行政課題等の情報を収集し、飯田ビジネスネットワーク支援センターと連携し企業へ提供 (随時)
- ②各種補助金等の説明及び相談会の開催 (随時)

(5) 地域企業イノベーション支援事業 (関東経済産業局委託事業)【ビジョン1】

①長野県・南信州地域を中心とした航空機産業装備品分野における連携受注体制高度化事業

ア プロジェクトマネージャー・コーディネーターによる営業活動・受注体制構築支援

- ・地域内サプライヤー管理用ポータルサイト構築支援
- ・品質管理ツール構築、システム詳細仕様検討

イ 地域中核企業の高度化支援

- ・品質管理体制構築 専門家指導3回実施
- ・特殊工程人材育成 専門家指導6回実施

- ・複数工程対応技術 ※コロナの影響により未実施
- ②装備品事業環境整備課題検討WG（（一社）日本航空宇宙工業会受託事業）
 - ア 第1回(11月10～11日)
 - ・高速温度変化試験設備実証試験・マニュアル整備、試験所運営・オペレーション体制等に係る意見交換
 - イ 第2回(2月19日)
 - ・実証試験結果の共有、次年度WG運営体制に係る意見交換

(6) 航空機産業海外販路開拓事業（長野県連携事業（一部、地方創生推進交付金活用））【ビジョン1】

①実施概要

- ア 米国航空機産業動向調査
 - ・ウエストバージニア州政府日本代表事務所とのWebミーティング
 - 第1回(12月16日) ウェストバージニア州の航空機産業取組動向 など
 - 第2回(3月10日) 米国における次世代エア・モビリティ分野も含めた動向把握・長野県航空機産業取組紹介（信州大学航空機システム共同研究講座の活動紹介など）
- イ 県内企業への情報提供（環境評価試験機器PR等）
 - ・県内企業等への航空機産業参入状況把握調査
 - 航空機業界動向の展開及び航空機産業への参入意欲や技術シーズ調査を実施
 - 訪問社数：25社

7. 拠点工場管理運営事業【ビジョン1】

熱処理工場棟事務所スペースについて、エアロスペース飯田が退居したことに伴い、入居者を公募し、令和3年4月より、多摩川パーツマニュファクチャリング（株）の入居が決定しています。

（1）工場の概要と入居企業

①熱処理工場棟（特殊工程技術（熱処理・非破壊検査）及び共同企業体の営業スペースを有する工場。延床面積 1,041.52 m²）

- ・入居企業 多摩川パーツマニュファクチャリング（株）
エアロスペース飯田（令和2年6月退居）

②表面処理工場棟（特殊工程技術（表面処理）及び飯田工業技術試験研究所検査部門を有する工場。延床面積 1,273 m²）

- ・入居企業 多摩川パーツマニュファクチャリング（株）
当センター飯田工業技術試験研究所

（2）運営に関する費用

①長期借入金 借入金額 210,000,000円（令和16年度完済予定）

②返済期間 20年元金均等

③利率 1.51%（固定）

④返済経過

年度	家賃収入（円）	返済（利息込） （円）	その他経費（年額概算）
26	15,538,312	0	
27	24,033,192	13,597,832	借地料 4,870,000
28	24,033,192	13,422,757	火災保険 350,000
29	24,033,192	13,268,368	警備委託料 1,140,000
30	24,033,192	13,109,761	修繕引当積立 1,964,000
01	24,256,288	12,957,732	光熱水費（当センター入居部分） 180,000
02	24,214,226	12,798,746	その他経費計 8,504,000
合計	160,141,594	79,155,196	

8. 三遠南信・広域連携事業

(1) 三遠南信地域【ビジョン4, 8, 9】

SENA（三遠南信地域連携ビジョン推進会議）主催の新事業「三遠南信のきらりと光る事業マッチング」について、飯田商工会議所及び飯田信用金庫と連携してエントリー企業3社（信菱電機（株）、（株）電算、三和ロボティクス（株））のサポートを行いました。

(2) 中京圏【ビジョン1】

エアロマート名古屋支援会議に参加し、各支援機関の活動状況共有・エアロマート名古屋での連携プロジェクト（他産業展開など）に係る意見交換をしました。

第1回 8月26日（オンライン開催）

第2回 10月7日（オンライン開催）

第3回 2月18日（オンライン開催）

(3) 関東圏（長野県を含む）【ビジョン1, 2, 3, 4, 9】

関東経済産業局が主催する航空機産業分野におけるビジネスマッチングに参加しました。

日 時 11～12月に随時商談実施

場 所 個別でのオンライン等による商談

その他 当地域では川下企業側で参加

9. エス・バードの活用促進

エス・バードがオープン後、実際に多くの利用がなされる中で判明した施設の改善が必要な箇所について、「第Ⅴ期工事」として利便性向上と機能向上に向けた整備が行われました。

信州大学航空機システム共同研究講座については、コンソーシアムによる運営・学生支援等により、今年度は3名の学位取得者が輩出されました。令和3年度より信州大学の教育システムとして分野横断ユニットに移行し、他大学からの学生の入学も可能となり大きく一歩前進しました。さらに、コンソーシアムによる運営支援の継続に向けて関係機関との調整を行い、令和6年度まで継続することとなりました。

デザイン系高等教育機関の設置については、講座の名称を「ランドスケープ・プランニング共同研究講座」とし、準備会で地元支援のコンソーシアム設立に向け準備を進めました。

エス・バードの視察受入については、昨年度末からコロナの影響により受入が激減していますが、小学生の社会見学の間として利用いただくこともでき、エス・バードの新たな利活用を見出すことができました。

(1) 産業振興と人材育成の拠点づくり

①整備関係

第Ⅴ期工事として、施設所有者である南信州広域連合により、次の整備が行われました。

(単位：千円)

工事箇所 工事内容	広域連合 令和元年度 補正事業	令和2年度 地方創生 交付金事業
振動試験棟建物	27,889	17,160
振動試験装置		97,570
受電設備増強		30,118
ファブスタ★(電源、警備)		0
正面広告塔設置		0
屋内外サイン増設		0
展示室出入口自動ドア化(2ヶ所)		0
C棟2階及び3階 信州大学教授室整備		0
B棟1階 渡り廊下出入口及びフェンス増設		0
B棟3階及びE棟2階 WiFi設置工事		0
B棟4階 企業懇話室 LAN配線		0
外灯増設(3ヶ所)		0
工業技術試験研究所給排水設備(2ヶ所)		0
ホール搬入口階段設置		0
合計		27,889

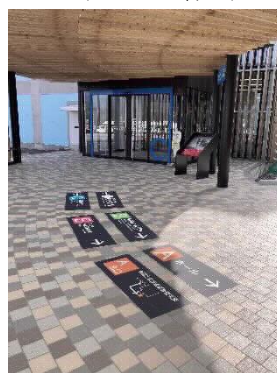
(振動試験棟)



(高周波振動試験装置)



(サイン増強)



(広告塔)



(2) 信州大学航空機システム共同研究講座の支援【ビジョン1,6】

①修士取得者

平成31年3月 2人

令和2年3月 6人

令和3年3月 3人

(学生数の推移)

	H29	H30	H31/R1	R2
1年生	3 (社会人1)	5	3	4
2年生	0	3 (社会人1)	6 (社会人1)	3
合計	3	8	9	7

(研究と人材育成の成果・実績)

- ・航空機メーカーのニーズに応じた最先端の研究（非接触油量計、磁性流体ブレーキ、GPS/INS複合航行システム、事故防止を図るヘッドマウントディスプレイ）を企業とともに実施。
- ・論文4件、学会発表合計18件（うち国際発表2件、国内発表16件）
- ・3月15日に修了生の研究成果発表会を開催しました。
- ・修了生は、航空機大手の重工業企業をはじめ、航空機関連企業に就職。
- ・1名は本共同研究講座で初めて博士課程へ進み、引き続きサテライトキャンパスで研究に取り組んでいます。

②コンソーシアムの機能強化

新規会員募集、企業版ふるさと納税の活用等を行いました。

③高等教育機関への移行

- ・信州大学の教育システムとして分野横断ユニットに移行し、他大学からの学生の入学も可能となり、大きく一歩前進しました。
- ・信州大学は、「航空宇宙システム研究拠点（SURCAS）」の、航空機システム部門長をエス・バードに置き、今後も当地域を中心に航空機システム分野の取組を強化する方針です。
- ・令和3年度以降の支援の在り方について、信州大学や長野県、コンソーシアム各関係機関と具体的な支援の方法について検討し、引き続き支援を行うことになりました。

④学生支援（給付型奨学金制度及び引越しに関する経費支援の実施）

給付型奨学金	信大大学院生	M2：3名	360,000円／人
		M1：4名	360,000円／人
引越し経費支援	信大大学院生	M1：4名	100,000円／人

(3) デザイン系高等教育機関の設置に向けての展開【ビジョン6】

①デザイン系高等教育機関設立準備会（8/6）

- ・信州大学からの提案（講座名称、講座内容、教員候補）
- ・地元支援（コンソーシアム）について

②関係機関協議等

- ・信州大学（10月2日農学部、2月19日農学部）
- ・南信州広域連合（10月7日）
- ・事務局内（12月1日）

③特記

- ・講座の名称については、信州大学から提案のあった「ランドスケープ・プランニング共同研究講座」に決定し、開講を令和5年4月と定め、準備を進めることとしました。
- ・当地域の特性・環境を活かしたもの、また、県内全域に波及する講座内容を信州大学農学部が検討中です。
- ・教員について、信州大学が候補者と交渉中であり、開講の1年前（R4.4月）に着任予定です。
- ・地域としては、賛同者によるコンソーシアムを設立し、資金的支援について寄付金の募集を開始します。

(4) エス・バード視察の受入

①受入数

年度	団体数	人数
01	104	1,431
02	12	158

②主な受け入れ先

地方公共団体、大学、航空機産業関連団体、小学校社会見学



（竜丘小5年生社会見学 11月5日）

10. その他

(1) 公益法人運営管理

- ・長野県出資等外郭団体評価定期報告
- ・長野県知事（公益認定委員会）あて次年度事業計画等の提出
- ・長野県監査委員事務局 財政援助団体等監査（10月14日）ほか

(2) 地場産業振興センター協議会への参加【ビジョン8,9】

①全国地場産業振興センター協議会

- ア 総会（7月15日 書面開催）
- イ コロナにかかる影響調査等への協力

②関東経済産業局管内地場産業振興センター協議会

- ア 協議会
 - ・第64回協議会（6月9日 書面開催）
 - ・第65回協議会（11月9日 書面開催）

(3) 新型コロナウイルス感染症にかかる対応と影響

①対応の経過

臨時休館 令和2年4月11日（土）～5月31日（日）52日間

臨時休館 令和3年1月18日（月）～2月7日（日）21日間

通年 利用者に対し感染防止対策の徹底（マスク着用、密回避、換気）、利用者数の制限（定員の50%まで）など

②施設利用キャンセル（令和2年度利用分）

147件 7,687,500円（うち、収入済額156,160円）

※特例措置として、コロナの影響によるキャンセルはキャンセル料金を徴収しないこととした。

【南信州地域における社会情勢の変化】

- リニア中央新幹線及び三遠南信自動車道の開通により、大都市圏との時間的制約が解消し、これまでにない規模の**大きな人の流れが生まれる**。
- 少子高齢化や都市圏への人口流出による**生産年齢人口の減少**に伴い、**人材不足が加速**し、当地域を支えてきた**基幹産業や、伝統的地場産業が衰退**し、事業承継問題もあって**技術の喪失**に直面する。
- **グローバル化の進展**に伴い、販路開拓から、生産、販売、消費等の一連の経済活動において、国内に留まらず**世界中に取引先**が拡がり、広い視野と行動がスタンダードとなる。
- I o Tやビッグデータ、AI、ロボットなどの**最新技術が、人々の暮らしにも大きく影響**する可能性がある。

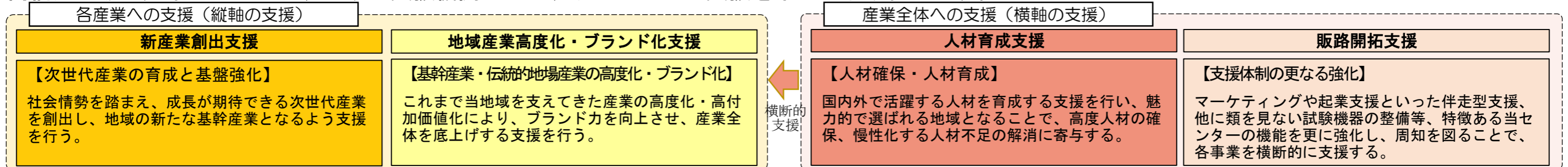
【南信州地域の課題】

- リニア中央新幹線の開通によって起こる当地域の**大規模な人の出入りのインパクト**を適切に捉え、都市圏と競うだけではなく、**地域の特色を生かした産業を振興**し、**選ばれる地域を目指す**必要がある。
- 異業種連携の伴走型支援や、試験所機能の強化といった**支援体制の更なる強化**を図り、**地域産業の高度化・ブランド化を図る**とともに、成長が見込める**新産業を創出し、育成する**必要がある。
- これまで築いた技術と最新技術を調和させることができ、また成長が見込める新産業をリードすることができる**高度な人材を確保・育成する**必要がある。
- ものづくりは得意であるが、その**販売先や手段が従来の範囲にとどまり**がちな当地域において、各企業がマーケティング力を強化し、**国内外を問わず販路を拡大する**必要がある。

【南信州地域が目指す産業の未来】

- ① 最新技術と南信州地域の豊かな自然が交差し、多くの人々が訪れ、活動し、実りを得られる、**選ばれる地域**を目指します。
- ② 人が集まり、共に学び、創造することで、人が産業や地域を育み、更にそうして育まれた地域や産業に魅かれて人が集まり、**共創する地域**を目指します。
- ③ これまでの基幹産業が持続的に発展し、更に新産業が創発され効果的に地域産業が融合し、各産業の技術力が向上し体制が強化されている**自立した地域**を目指します。

南信州・飯田産業センターは、地域の支援機関として、以下の4つの支援を中心に取り組みます。



南信州・飯田産業センターは、「目指す産業の未来」を実現するため、具体的に以下の事業に取り組みます。(前期：2020年度末までの取り組み)

具体的な事業	次世代産業の育成と基盤強化			基幹産業・伝統的地場産業の高度化・ブランド化		
	1 航空機関連産業の基盤強化	2 メディカルバイオクラスター分野の育成	3 食における新商品開発、販路拡大、拠点の「食の基地化」	4 ものづくりの高度化・高付加価値化支援	5 地場製品のブランド化支援	
	○プロジェクトマネージャーを中心に、飯田航空宇宙プロジェクト・エアロスペース飯田の受注拡大を目指すための支援を行います。 ○海外からの受注にも対応するため、エアロスペース飯田の組織の強化と、メンバー企業各社の体質強化を推進します。	○飯田メディカルバイオクラスター「医療機器分科会」「食品系分科会」について、医師会、医療関係者や関係機関と連携することにより様々な事業を実施し、クラスター活動の強化を図ります。 ○国内川下企業からの受注獲得に向けて、クラスター組織の機能強化に努めます。	○食品産業の専門人材、信州大学、長野県工業技術総合センター、飯田女子短期大学等と連携し、健康、長寿、機能性等について共同研究・開発を行う。 ○新たに導入する味覚センサー、レオメーター等の試験設備を活用することにより、おいしさの数値化、分析を進め、データの蓄積を行う。	○地域内の中小企業で構成する「ネスクイダ」においてオーガナイザーの支援の下、新製品の開発や大手企業等からの受注拡大を目指します。 ○地域内企業の潜在能力を活かすため、地域内外の支援機関・大学との連携を図り、製品の高付加価値化に取り組みます。	○水引等の伝統的地場製品について各団体と連携して、デザイン力を加えたブランド力向上に向けた、様々な事業を実施します。 ○大学との連携により、課題の洗い出しを深化させ、解決に向けた取組を行います。	
	目標設定	航空機分野に関する売上額 31.09 億円	新製品等の数 (累積) 4 件	専門的な研修会等の開催 12 回/年	製造品出荷額 3,482 億円 (2016 年実績) → 4,090 億円 水引産業の全国シェア 70%維持 デザインサポート事業の開催 5 回/年	
	具体的な事業	人材確保・人材育成 (横断的支援)		支援体制の更なる強化 (横断的支援)		
6 高等教育機関との連携による高度人材育成		7 地域産業の未来を担う人材の確保と育成	8 地域内外への情報発信	9 起業・創業支援、異業種連携、ビジネスマッチング	10 公的試験部門の機能強化	
○信州大学航空機システム共同研究講座の運営について、運営を支えるコンソーシアムの事務局を担うとともに、構成団体等との調整を図ります。 ○デザイン系高等教育機関の設置について、信州大学と関係機関との連携を図りながら実現に向けて推進力を強化します。		○働きながら学べる「飯田産業技術大学」において地域産業の底上げに必要な人材育成を行います。 ○地域内高校の協力を得ながら、慢性化している人手不足の解消に向けて、地域内企業の周知の場を設定し、生徒・保護者や教師に向けて発信します。	○国・県・企業等の視察の受け入れを積極的に行い、当地域の取り組む産業支援と、公的試験所のPRを積極的に行います。 ○WEB サイト等を活用し、当センターが実施する次世代・地域産業の基盤構築事業について周知を図ります。	○飯田市が運営している「I-Port」と連携し、意欲ある起業家の発掘を進め、その起業家に対し伴走型の支援を行います。 ○オーガナイザーを中心に地域内企業の連携先を模索するとともに、ビジネスマッチング等の商談会に積極的に参加します。	○海外でも類を見ない環境試験機器の充実を図ることにより、航空機産業を中心にした製品の高付加価値化に貢献します。 ○従来からの知見のあるEMC試験について、自主測定のみならず受託試験を積極的に受け入れ、付加価値の高い試験部門を目指します。	
目標設定		信大学位取得者数 (延べ人数 13 人)	飯田産業技術者大学受講者数 1,000 人/年 高校生の事業の参加者数 1,000 人/年	視察の受け入れ 20 件/年 シンポジウムの開催 3 回/年	I-Port 連携件数 3 件	工業技術センター試験部門利用件数 852 回/年→1,150 回/年
<p>毎年度実施する取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年事業計画を策定し、その計画を基に事業を実施します。 ○ 事業計画・事業報告策定時には、PDCA サイクルにて各々の事業を検証します。 						